

■ ガンバル基金でまちづくりを推進

りっとう
滋賀県栗東市

栗東市では、平成16年に、りっとうガンバル基金（市民社会貢献活動促進基金）を創設し、これまで52団体を対象に、団体の自主性・自発性を尊重しながら、助成事業を行ってきた。また、22年4月には市に協働まちづくり課を創設するなど、さらに積極的な支援体制の構築を進めていた。町においても、このような基金を広く活用した取り組みなど、様々な支援を図るべきと考える。

■ 大学の協力を得て事業仕分けを実施

京都府長岡京市

長岡京市では、事業仕分けを実施するに当たり、外部評価を滋賀大学地域連携センター石井良一教授に業務委託した。教授は、研究の一環として事業仕分けに取り組んでいるため、安い経費で行うことができた。大学の協力が得られたことは非常に恵まれた環境にあったと言える。わが町もこのような手法を更に探求していく必要があると感じた。



10月13日～14日

総務委員会

◎小川 龍美
大坪 上野 国広
○小山 典男
齋藤 成宏

厚生文教委員会

10月27日～28日

■ 教育改革と学力向上について

島根県出雲市

● 教育委員会組織の見直し

出雲市では、教育委員会組織の見直しを行い、社会教育部門を市長部局に移管、学校教育に専念できる体制を整えていた。

その中で、地域学校運営理事会制度、小中一貫校、地域コーディネーター、学校ボランティア、チームティーチング、ウィークエンドスクール事業など先駆的な実践を行っており、学力向上に寄与していた。

町でも各種施策を展開しているが、ソフト面の更なる充実が必要である。

● 出雲科学館における理科学習

理科教育の現状が、わが国の将来にも問題となる中、総事業費43億円で出雲科学館を開館、サイエンスホール・展示体験プラザ・実験室・工作室・木工室などを設置、年間を通じて理科授業が行われている。

都では、西多摩をシリコンバレーにしようという計画があるが、わが国の将来には技術や知能が必要である。科学館のような専門施設も必要だが、町独自の建設維持は難しく、西多摩行政圏での前向きな議論が必要だろう。



◎小野 芳久
近藤 浩
小池信一郎
○高水 永雄
青山 晋

■ 産学官、農商工連携で地域ブランドを開発

いみず
富山県射水市

射水市はまちづくりの一方策として、射水ブランドの開発に取り組んでいた。魅力ある地域資源を食・水・祭の3点に絞り、アクションプランと銘打った具体的な事業をそれぞれの分野で推進。「食」では、大学や農商工と連携して、生産物をブランド品へと開発し、製造・販売していた。わが町のブランド開発に大いに参考となった。

■ 不耕作地で菜の花エコプロジェクトを展開

滋賀県東近江市

東近江市では、資源循環システム「菜の花エコプロジェクト」事業を、「自律」と「自立」の地域づくりを基本とした運動と位置付け、積極的に推進し、大きく八つの効果を上げていた。18ヘクタールもの不耕作地を利用して展開されており、花の時期は観光としての一役も担っている事は、わが町にとっても学ぶ点があると感じた。



■ ブランド品の製造・販売をすべて町独自で

とよさとちよう
滋賀県豊郷町

豊郷町は、高齢者の生きがいを目的に、坊っちゃんかぼちゃを特産物にしようと生産化に着手。10年間で耕作地は17倍までに拡大した。併せてそれを使ったブランド作りにも取り組み、町民の作品を参考に、町の製造者の協力を得て「パンプキン王子」の販売を開始した。町ぐるみで取り組む姿勢は大いに参考になった。

産業建設委員会

10月19日～21日

◎石川 修
竹嶋 久雄
○下野 義子
森 亘
尾谷 四男
武夫